

2学期が始まりました ～学ぶこと・考えること～

みなさん、こんにちは。久しぶりの校長メッセージです。

2学期が始まり、学校に児童の歓声が戻ってきました。休み明けにはいつも同じことを思うのですが、やはり学校はこうでなければいけません。

一方で、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大は本校においても例外ではなく、夏休み中（特に後半）、断続的に児童や教職員から感染の連絡を受けるという状況となっています。そのため、5年生以下は夏休み中の登校日を中止するとともに、2学期スタートの2日間は4校時で終了とする等の対応を取ることとしました。

全国的には感染者は減少傾向との報道もありますが、しばらくはその都度その都度の状況を踏まえながら、児童の安全・安心を最優先とした柔軟な対応が必要になると考えています。その点では、今後も行事等の急な変更等を行うこともあろうかと思えます。保護者の皆さんには、引き続きの御理解と御協力をよろしく願います。

さて、先日、ふとしたことから若い頃に買った『論語』に関する本を読み返すことができました。その中で…

学んで思わざればすなわちくら罔し。思うて学ばざればすなわちあやうし殆し。

という言葉が強く心に残りました。「人や本から知識を学ぶばかりで自分で考えようとしなければ、本当に分かったとは言えない。一方で、自分一人で考えるばかりで、人や本から学ばないと考えに偏りが生まれて危険だ。学ぶことと考えることはどちらも大切だ。」といった意味です。この言葉自体は昔から知っている言葉でしたが、今回改めて読んで、「宮園小の児童には、このように学ぶことも考えることも大切にしながら育てほしい。そして、そのためには、まず私達自身がそうでなければいけないな。」と思いました。

先生や友達が言ったこと、本に書いてあったことを生かして、自分で考え、行動する。自分でしっかり考えた上で、先生や友達、本から学び、更に深める。宮園小は、こうした営みが日々繰り返される学校になってほしい、していきたいと思いました。

そして、それは、本校の学校教育目標の「自分を育て みんなで伸びる」につながるものであると同時に、今よりもっと変化の激しい時代を生きることになる本校の児童にとってとても大切なことだと考えました。

今から2千年以上前の言葉ですが、今でも立派に通用する言葉だと思うとともに、その言葉を拝借して2学期のスタートに当たっての校長の所信を述べさせていただきました。

今学期もよろしく願います。